

令和3年度 第2回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和3年9月24日(金) 9:40～11:30

於: 千里丘小学校 東棟1階会議室

記録: 紅林 陽子(事務局: 本校教頭)

出席委員: 中田 康之、以登田 毅、寺田 洋子、青木 みゆき、木下 さひ子、藤浦 清美、前馬 晋策、橋爪 恵子

欠席委員: 佐野 英和、武友 加代子

学校出席者: 校長 撰田 裕美、教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

9月末になり、暑くなったり寒くなったり寒暖の差が大きくなってきた。幸いなことに体調を崩す児童は少ないが、全国的に学齢期、就学前での新型コロナウイルス感染が広がっている。そのため、昨年度よりさらに慎重に感染対策を行いながら日々の教育活動を行っている。本日は学習活動の展開や児童の学びに向かう様子、学校の環境などを実際にご覧いただき、いただいたご意見を今後に生かしていきたい。

2. 校内参観

3. 協議

(校長) 授業の様子、千小っ子運動タイムの様子をご覧いただいた。ご意見、ご感想をお伺いしたい。

(委員) 会議室横のモニターで、メッセージを流していた。あれはどの学校にもあるものか。

(校長) デジタルサイネージは、本校創立70周年で寄贈いただいたものである。児童の様子や来校者へのメッセージの発信に活用しているが、今は夏休みの作品展の作品を提示している。

(委員) 夏休みの作品をこのように紹介すると、子どもたちは嬉しいと思う。

(委員) 子どもの作品はそれぞれの個性が発揮されていてよい。素材も布や木を使った作品が並んでおり、どれもレベルが高くて驚かされる。

(委員) 学校全体を回ってみて、新型コロナウイルス感染症のことが学校生活に大きく影響しているのだと感じた。

3年生の教室では、5名の空席があった。感染症が不安で登校できない児童などもいるのか。

(校長) 5名のうち2名は支援学級で学習している。2名が緊急事態宣言下の出席を控えている状況である。

(委員) 授業中、トイレに行った児童がいたが、手を洗った後にハンカチで手を拭いていなかったのが気になった。

コロナ禍のピンチの中ではあるが、この機会にハンカチを使うなど、基本的な生活習慣を身に付けるように指導をしていくとよいと思う。

(校長) 手洗いは徹底していきたい。

(委員) 整理整頓がとてもよくできていて、学習する環境が整っていると思った。児童も落ち着いて学習できている。

ほとんどの教室でモニターを活用しており、感心した。

(校長) モニターが大きくなったことで、子どもにとっては見やすくなった。

(委員) モニターに映し出しているデータはどのように準備しているのか。

(教頭) 教師用として教科書をデジタル化したものや、漢字指導用のコンテンツなどを活用したりしている。また、i Padを活用することで、以前より写真や動画の提示が手軽にできるようになったことは、大きな利点だと感じている。

(委員) デジタル教材を活用することで、先生方の教材作りへの負担が減った、ということは良かった。

(委員) どの学年も、学習に向かう姿勢が感じられた。話を聞くと、発表するとき、授業、休み時間などのけじめがしっかりできている。落ち着いていて、雰囲気がとてもよい。体力づくりの取組みもすばらしい。体力は基本だと思う。

(校長) 体力調査の結果から、運動する子と運動しない子の格差が大きいことが本校の課題として浮かび上がってきた。特に昨年度のコロナ禍において、休業中に子どもたちの体力が落ちたと感じており、体育の授業の後に「しんどい」と訴えて保健室に行く児童が多かった。そのような状況を受け、制限が多い中ではあるが、プールも夏休み中にも実施するなど、運動の機会を確保するよう取組みを進めている。取組みの一つとして紹介している「千小っ子運動タイム」は、先週から開始したばかりである。「体を動かすと楽しい」ことを実感させるのが目的である。

(委員) サーキットのセットは体育館全体を使っていてすごかった。準備が大変なのは。

(校長) スクールサポーターや、児童の体育委員を活用して準備を行っている。

(委員) 体育委員の子どもたちのサポートが素晴らしくて感心した。ずれたり倒れたりした器具を素早く直すなど、気付いたことがあれば自主的にてきぱき動いていて、とても輝いていた。低学年はそれを見て、憧れを抱いたはず。いい意味で縦の関係ができていると思った。

(委員) 図書室では、パーテーションで一つ一つの席が仕切られている上に、座席も一つ飛ばしにしている、密を避ける措置が徹底されているのが分かった。あのパーテーションは市からの支給か。

(校長) パーテーションは、校務員がコロナ感染症対策として作成した。パーテーション以外にも、アルコールの足踏み噴射装置など校務員が作成しており、学校の環境整備に尽力してくれている。

(委員) 「校務員が作った」ということがすごい。出来栄や巧みに驚いた。

(委員) 図書室では席の間隔を開けるために机に表示があったが、「使えません」といったマイナス言葉よりは「間をあけてね」といったプラスの言葉が良いのでは。「ソーシャルディスタンス」なども良いかと思う。

(校長) 図書室では読書サポーターが子どもたちの読書活動をサポートしてくれている。図書室前方には、新着本などの置き方を工夫してレイアウトするなど、児童の読書意欲を掻き立てるのに一役買っている。

(委員) 子どもたちの読書活動をサポートしてくれている人がいると、一層取組みが進むと思う。

(委員) 自分が子どもだった時のことを考えると、図書室の本が充実していて、素晴らしいと思った。

(校長) 読書タイムで、毎日本を読んでいる。コロナ禍で図書室に行く回数も制限されているが、子どもたちは図書室をよく利用して本に親しんでいる。

(委員) 20分の運動タイムはすごく生き生きと子どもたちが運動していて、いい取組みだと思った。千里丘独自の取組みということだが、素晴らしいと思う。見守る教職員の声かけも活気があって、学校を盛り上げようとしている意識が感じられた。

また、1年生は入学してからたった半年なのに、落ち着いていて驚いた。誰も立ち歩くこともなく算数に取り組んでいる姿勢に感心した。タブレットも活用していて、驚いた。コロナが明けた時には、さらに良い千里丘小学校になっていると思う。

(委員) 支援学級で、子どもたちがそれぞれ課題に取り組んでいた。一人ずつやっていることが違っていたが、取り組む内容はそれぞれ異なっているのか。

(校長) それぞれの児童の特性に応じた課題に取り組んでいる。児童一人ひとりで課題が異なるので、課題は支援担任が一つ一つ手作りで作成している。

(委員) 子どもに合わせた課題を準備しないといけないということか。それを手作りで用意するのがすごい。

(委員) 子どもたちが一人で活動できていることが素晴らしいと思う。

(委員) 教室前方の掲示が極力少なくなっており、視覚的に子どもたちの気が散らないような工夫がなされていた。一方で教室入り口には「あいさつをしよう」など必要な掲示がされており、教室環境が精査されていることに感心した。

(校長) ユニバーサルデザインの理念にのっとり、教室のレイアウトを学校全体で統一している。一日の流れを把握し見通しを持ちやすくするためのスケジュール表の活用や、前方の掲示を削減するなどのもその一つ。また、机の横にも極力物を吊るさないようにして、刺激を少なくする工夫をしている。

(委員) 教室後方に子どもの様子が掲示されていた。掲示物にも工夫が凝らされているように感じる。

(校長) 「魅力ある学校づくり」の取組みの一つで行っている。普段の何気ない行動、“当たり前”の行動を改めて価値づける取組みである。当たり前を誉めることで、子どもたちの自尊心を高めるねらいがある。

(委員) 子どもたちの自信につながる取組みになっていて、良いと思う。

(委員) 運動タイムの体育委員の動きがとても良かった。低学年の児童達も「カッコいい」と思いながら見ていると思う。ただ、換気については、上部の窓を対角線に開けたらもっと空気が回ると思う。

(委員) サーキュレーターは排気にも活用しないと空気の入替えができないので、現在の配置場所を改善した方が良い。また、マット補助をしている教員の名札が児童に引っかかりそうで気になる。マット運動を補助する教員の立ち位置も改善が必要だ。

運動タイムは、持久力だけでなく、体の巧緻性、調整力などの向上にも取り組んでいてよかった。

外国語はALTと英語専科が授業をしていて、担任の姿がなかった。外国語を誰が教えるのか、というところが気になる。現在の学習指導要領では、小学校の先生は英語も教える必要性がある。教員採用においてもそれは意識されている。小学校の教員は誰もが外国語を教えることが前提になっている一方で、先生方には苦手感があるのではないか。

(校長) 苦手感はあると思う。担任は外国語と理科を担任外の教員に持ってもらいたがる傾向にある。理科は準備が大変などの面があり、外国語は教員自身のスキルに自信がない部分が多い。小学校では誰もが全ての教科を教える、というシステムではある。全てのスキルを身に付けることが望ましいのではあると思うが、“育成”という意味では学校だけでは難しく、悩ましい。

(委員) 小学校では児童に対して、学びのきっかけづくりが大切。先生の興味・関心が児童に反映されていくと思う。理科離れ、英語嫌いを生まないためにも、どの先生もが「楽しい」というスタンスで取り組むことが必要だと思う。多角的な視点から、総合的な人格形成において取組みを進めてほしい。

(委員) 久しぶりに学校をのぞかせていただいた。長男が通っていた頃とずいぶん雰囲気が違っており、トイレがきれいになっていて驚いた。20分休みの運動タイムの取組みは素晴らしかった。子どもたちは本当に楽しそうに活動していた。コロナで体力が落ちているのは高齢者だけではないのだと思った。先生方が毎日消毒している、というのを聞いて、大変だなあ、と思った。

(校長) 千小っ子運動タイムは以前から行っていたが、涼しい時期に走る、という活動が中心となっていた。中には嫌がる児童もあり、活動の充実が難しかった。サーキットの取組みは、「コスモスポーツクラブ(幼児活動研究スポーツクラブ)」のご指導を頂きながら進めている。それぞれの動きも遊びのように見えるが、ケンパでは跳び箱の踏み切りにつながる動きを自然に習得することを、またジグザグ走では右回りも左回りも経験させて、バランスの取れた走り方を身に付けることなど、ねらいをもって一つひとつの動きに取り組んでいる。遊び感覚で楽しみながら、運動能力が上がることにつながるよう、3分間の活動を組んでいる。意外と運動量が多く、教職員自身が研修で取り組んだ時は、3分間継続して体力がもたなかったくらいだ。取組みを始めたばかりなので、今後に生かすべく、ご意見をいただいた。

(委員) 音楽に緩急をつけるといいのかも。早い動き、ゆっくりとした動きなど、調整力をつけることもねらえる。外部から指導受けるのはとてもよいと思う。

(校長) グッズも安価で学校にある物を活用している。あるものを工夫することでできる、ということが勉強になる。

(委員) 体育委員にもアイデアをもらっても面白いかもしれないかも。始めてまだ1、2回目とは思えないくらい、子どもたちはスムーズに活動していた。

(校長) 体育の時間に少しずつ運動の意義や取組み方などを教えてきている。今日取り組んでいた3年生は、今回が初めての運動タイムである。

(委員) フラフープのケンケンのところは、体育館に貼りっぱなしでもよいのかも。動かないし、準備も手間がかからない。

(校長)改善の余地はまだまだある。今後も改善を重ねていく。

(委員)1年生の算数では、2+3+5の足し算を学習していたが、入学して半年でこんなレベルになる、というのに驚いた。就学前の施設において身に付けておくべき知識などが、気になった。入学時に差があるのか。

(校長)文字も数字も学校に入ってから教えていく。就学前に足し算などの学習をしておくべき、とは思わない。

(委員)就学前に興味を持ってほしいと思う。この字はどんなことを書いてあるか、どちらの数が多いか、とか。早期教育を進めるより、興味・関心を高めておくのが大切だろう。

(委員)日常の中で学習させていくことが大事と感じている。子どもたちは身近な目に付くところから吸収・理解していく。今年度は年長のロッカーの名前を漢字にしてみたところ、読めるようになっていて驚いた。大人の概念を取り払って、身近なところから学ばせていくことが大切だと思った。

また、体力づくりだが、生きていく上で健康はとても大切だと思う。体力をつけるために取り入れていけないといけないと思う。

(委員)千里丘小学校の体育館は、三宅柳田小学校に比べて狭いように思う。

(校長)本校の体育館は約530㎡。他校の体育館の平均面積はおおよそ800㎡で、比較すると少し狭い。

(委員)今年の1年生は多く感じた。上級生より児童数が多いのだろうか。

(校長)6学年の中で一番多い35名が机を並べている。また、新型コロナウイルス対策で、机を合わせることでできないので、余計に狭く感じる部分はある。

(委員)次年度はまた入学生が増えると伺った。学校がどんどん大きくなっていく。

(校長)今年度は「通学区域をどうするか」の話が終わり、現状での校区が維持されることが確認されたところである。校舎については、今後どうするか議論が進んでいく。

(委員)校舎の老朽化が目立つ。教室の天井にしみもあり、雨漏りがある様子が伺える。維持補修が大変だと思う。

(委員)私が通っていたときに新館(東館)ができたが、ずいぶん経っており、「新館」とは呼べない状況だ。

(校長)すでに現時点で空き教室がない。新館については全て鍵がなく、南京錠で施錠しているところであり、古さを感じる。今後、教室確保、老朽化については本校の課題になっている。

4. 次回の予定

次回は、運動会の取組みなど、教育活動の報告を行う。

次回日程は、11月5日(金) 18:30～開催。